

第2回 GLODEA SALON

「体験を通して楽しみながら、子どもの創造性を育むシアターゲームの魅力」

別役慎司

■シアターゲームとはなにか？

シアターゲームは古くは「劇遊び」ともいわれます。(シアターゲームという呼び名が一般的ですが、ドラマゲームとも呼ばれます)俳優トレーニングとしても使われる種々のゲームですが、応用の範囲は広く、ビジネスマンの研修として使っても高い効果を上げています。

広義の意味では、言葉や身体を使った遊びです。

ゲームのルールがあり、そのルールに基づいて即興的に遊ぶものが主流ですが、なかには小道具を使ったり、何かを作ったり、台詞にそって行ったりするものもあります。



「101 more drama games for Children」の著者ポール・ルーヤッカーズは、「ドラマ、語学、パブリックスピーキング、英語、ESL クラスなどで様々な教育的ゴールをもたらし、それらはまた遊び手の個人的・社会的成長にとっても価値がある」と述べています。

■シアターゲームのもたらすスキルアップ

ルーヤッカーズは、このような目的のためにゲームをデザインしたといます。

①創造性を伸ばす

……「ドラマゲームは創造力を常に刺激し、伸ばします。皮肉なことに、私たちの多くは自発性を学ばなければいけないのです」

②演じる技術を伸ばす

……「様々なキャラクターを演じたり、声や、表情、ボディラングージなどを使って、異なる感情を表現したり、想像力を使ってパフォーマンスを行います」

③言語のスキルを伸ばす

……「ゲームは遊び手に、人前で話す機会を与え、言葉遣いや表現、流暢さを伸ばします」

④聴くスキル、観察スキルを伸ばす

……「周りに見えるものに気づき、真似ることをします。相手を尊重して聴き、正直に建設的に反応します」

⑤社会的なスキルを伸ばす：協力、信頼、尊重

……「ペアやグループでワークをする機会がたくさんです。協力してパフォーマンスします」

⑥自信を伸ばす

……「全ての人が輝くチャンスがあります。楽しく自己表現することで、内気さや人前での恐怖を克服する手助けをします」

「On Stage –Theatre Games and Activities for Kids-」では、

「想像力を広げ、自由に考え、話し、動きます。声や身体を使ってどのように自分を表現するか学びます。演劇のスキルは子どもたちの自尊心を高め、より容易に新しい状況に進ませ、問題解決を手伝い、聴くスキルを伸ばし、協力を後押しし、他者とより心地よく交流を図れるようにし、人前で話す恐怖を和らげます」というように語っています。

■シアターゲームはただ楽しむものではなく、目的と

効果が大切

一つひとつのゲームはとても楽しく熱中してできるものが多いのですが、楽しむことだけを目的にしてはいけません。ゲームはバリエーションが豊かなだけに、目的と効果を意識して行う必要があります。

一つひとつのゲームはそう長くなく、5分くらいで終わるものもあれば30分以上のものもあります。それらを組み合わせた、全体的な目的と効果も意識して設計します。

【参考】FEATHER IMPRO ACT PROJECT

創造力	表現力	個性	集中力
想像力	臨機 応変力	自発性	エネル ギー
説得力 交渉力	判断力 決断力	緊張に 負けない力	脳力 頭の 回転
コミュニ ケーション力	プレゼン テーション能力	リーダ ーシッ プ能力	15の ヒューマンスキル 人間力

例) 「One Word at a Time」 by The Gamesters' Handbook3

目的：協力、傾聴、言語の発達、創造性
 モノ：なし
 手順：1. 円になって座る。
 2. グループで一つのストーリーを作ります。一人ひとり交代でいっていきま
 すが、一語ずつしかいえません。
 応用：グループの想像力次第で、2～3語ずつ交代でいたり、フレーズごと、文章ご
 とにしてもいい。また、瓶を回転させて、回っている間ストーリーを喋り続け
 るというパターンもできます。

■わたしたちが2017に行った事例

- ・習志野台幼稚園 年長組
- ・小石川ウーマンベース 文京映画祭企画
- ・我孫子学童「あびっこクラブ」

→動画で一部ご紹介します

MEMO

■ みんなでシアターゲームをやってみましょう

「Slide Show」 by 「On Stage –Theatre Games and Activities for Kids-」 一部改変

(Ver.1)

一人がプレゼンター、他の人たちはスライドショーの一部になります。

プレゼンターは休暇のストーリーを話します。プレゼンターのストーリーに合わせて他の人たちは写真のようにポーズを取ります。ストーリーを話して、プレゼンターが「そのときの写真がこれです」といいます。そうすると、他の人たちは再現すべくポーズを取ります。また、ストーリーを続け、「そのときの写真がこれです」というと、他の人たちはポーズを変えます。そのとき、プレゼンターは「岩にしがみついていたときの写真がこれです」というように、具体的に取ってほしいポーズを指示しても構いません。

(Ver.2)

同様に行いますが、今度はプレゼンターが「次のスライドをご覧ください」といったら、他の人たちがなにかシチュエーションを現すポーズを取ります。プレゼンターはそのポーズを見て、どんな旅だったかを話します。

では、実際に体験してみて、このシアターゲームの目的と効果についてディスカッションしてみましょう。

目的・効果	
対象年齢（学年）	
何分くらい？	
人数は？	
その他 （注意点やファシリテートの仕方、感想など）	

■ 本日の振り返り

本日の内容を振り返ってみましょう。